



成人病（生活習慣病）*News Letter*

第44回日本成人病（生活習慣病）学会を終えて

第44回日本成人病（生活習慣病）学会会長
 帝京大学医学部学部長 寺本 民生



◆会長挨拶

第44回日本成人病（生活習慣病）学会は平成22年1月9日（土）、10日（日）の二日間にわたり行われ、医師、コメディカルの先生方合わせて約500名の参加者を得て、盛会裏に行うことができました。これもひとえに会員ならびに役員の方の温かいご支援の賜物と感謝申し上げます。

本学会のテーマは「生活習慣から高齢化社会を展望する」とし、あえて「生活習慣病」というより、その前にある「生活習慣」自体を考察して生活習慣病予防対策を考えるということに焦点を当てました。

印象に残る言葉として meet the expert のセッションで、百寿歳のお年寄りの研究をされている慶応義塾大学の広瀬信義先生の「お元気なお年寄りに共通していることは、小学校のときの成績がよいことである」という言葉です。おそらく多くの方は、よい生活習慣か悪い生活習慣かはご存知なのでしょうが、それを素直にできないために生活習慣病を持つことになってしまうのでしょうか。小学校の時に成績がよいのは、先生の言うことをよく聞く「よい子」だったのではないのでしょうか？本学会の仕事は、正しい生活習慣を科学的に正確に整理することであり、正しい知識を国民に伝えることであり、そのためには啓発活動が重要であることを再認識した次第です。しかし、子供の現状は、かなり危機に瀕しているということも、帝京大学小児科の児玉浩子先生の講演から教えられました。我々、成人病学会としては、その背後に今後の日本を支える子供たちがいることを認識して、子育て世代（成人）に対する啓発活動をするところこそが、日本の健康対策にとって重要であるという認識が必要なのではないでしょうか。

科学的な目で運動や食事のことを考えるということで、東京医科歯科大学の小川佳宏先生と京都大学の森谷敏夫先生に講演していただきました。小川先生からは、我々が常識的に思っている脂肪の意義を細胞生物学的な視点からとらえられ、脂肪摂取に関する栄養指導の意義をサポートするものでしたし、森谷先生の「エクササイズ」、「身体活動」のもつ生理学的視点からの解説は、運動指導をサポートする有意義なお話でした。

また、本学会のメインテーマの一つであるガンについては「乳がん治療」とともに、高齢化社会における最新の非侵襲的治療



をシンポジウムで議論していただきました。分子標的療法など最近の進歩には目を見張るものがありました。とくに内視鏡手術の成績が大層よくなっていることは、今後のお年寄りの健康を守る上でも我々医師の自信につながるものです。

学会の使命でもある啓発活動として市民公開講座を行いました。今回は「まもろう、大切な心臓と脳」と題する公開講座でしたが、応募者が多く、会場はほとんど満席の状態でした。千葉大学の齋藤康先生、神戸大学の藤岡由夫先生、熊本市市民病院の橋本洋一郎先生の熱弁のなか、和やかな雰囲気でも会場も一体となった啓発活動ができたのではないかと自負しております。

最後に、今回は105題の演題をいただき、例年より会場を一つ増やして行うことができました。また、会場での討議も活発に行われ、本会を主宰させていただいたものとしてこの上ない喜びを感じております。先生方のご協力に感謝申し上げ、今後とも学会の発展のために、さらなるご支援をお願い申し上げまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。



◆市民公開講座

第44回日本成人病（生活習慣病）学会 一般演題【会長賞】

第44回日本成人病（生活習慣病）学会は1月9、10日に開催されました。
 今回も一般演題の各セッションより一題を優秀演題として座長の先生に選定いただき、会長賞として表彰いたしました。
 今回は一般演題数が105題と多かったため、以下の27演題が会長賞に選定されました。
 皆様のご協力により活発で有意義な討論ができ、盛会のうちに終えることができましたことを感謝いたします。

第44回日本成人病（生活習慣病）学会 事務局 木下 誠

セッション名	演題名	演者／所属
メタボリック シンドローム 1	メタボリックシンドローム対策の各種判定基準による選出状況の比較検討	山鳥 江美 大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教室
メタボリック シンドローム 2	インスリン抵抗性や腎機能による血清補体 C3 濃度の変化	大澤 勲 順天堂大学医学部 腎臓内科
生活習慣 1	地域在住高齢者における食品摂取状況の性差およびい瘦との関連性	柴崎 孝二 東京大学大学院医学系研究科 加齢医学
生活習慣 2	地域在住高齢者の転倒リスク、活力度と食生活習慣との関連性	小川 純人 東京大学大学院医学系研究科 加齢医学
代謝・内分泌 1	2型糖尿病患者における診療の説明理解度と心理的ストレスの関連	西垣結佳子 筑波大学大学院疾患制御医学専攻 内分泌代謝・糖尿病内科
代謝・内分泌 2	肥満・非肥満別と18歳からの体重増加率から検討した合併症予防のための目標体重	高村 晴美 せんぼ東京高輪病院 栄養管理室
代謝・内分泌 3	2型糖尿病患者における食後中性脂肪とアポB48の変動	森 雄作 昭和大学医学部 内科学講座 糖尿病代謝内分泌部門
代謝・内分泌 4	食後高脂血症に対するエゼチミブの効果	安田大二郎 帝京大学医学部 内科
代謝・内分泌 5	HepG2 スフェロイドの in vitro 脂質代謝研究における有用性	蔵野 信 東京大学医学部附属病院 糖尿病代謝内科
循環器 1	高血圧患者における血管内皮機能と他の潜在性臓器障害指標との関連	吉田 雅伸 東京医科大学 第二内科
循環器 2	2型糖尿病患者の冠動脈石灰化及び狭窄に関する因子の検討—MDCTを用いて—	功刀 高子 東京女子医科大学 糖尿病センター内科
循環器 3	頸動脈超音波法の心血管系イベント発症予測因子としての意義	石津 智子 筑波大学大学院人間総合科学研究科 循環器内科
循環器 4	超高齢者の急性冠症候群に対し冠動脈インターベンションを施行した46例についての検討	白鳥 宜孝 帝京大学医学部附属病院 循環器内科
循環器 5	心房細動の危険因子	村越 伸行 筑波大学大学院人間総合科学研究科 循環器内科
健診・ドック	大脳深部白質高信号所見(DSWMH)の年齢別出現状況と頸動脈硬化との関連	阿隅美保子 医療法人 星陵会 仙台星陵クリニック
消化器 1	NAFLDにおける肝酵素の臨床的意義	児玉 和久 東京女子医科大学医学部 消化器内科
消化器 2	一般住民における上部消化管症状—市民講座受講者のFスケール調査票の結果より—	山本 貴嗣 帝京大学医学部 内科
消化器 3	Min マウスにおけるAdiponectinのポリーブ抑制作用の検討	大谷 研介 東京大学医学部 腫瘍外科
代謝・内分泌 6	ケトアシドーシスの発症で初めて診断された2型糖尿病の臨床像の検討	高井 敦子 帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科
代謝・内分泌 7	2型糖尿病患者におけるインスリン抵抗性改善薬のPWVへの効果	塚本 和久 東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科
代謝・内分泌 8	2型糖尿病患者において血中FGF21およびアディポネクチン濃度と相関する臨床指標の検討	江藤 一弘 自治医科大学 内分泌代謝科
代謝・内分泌 9	シトルリンはマクロファージからのコレステロール搬出を促進してHDL機能を改善する	近藤 春美 防衛医科大学校 老年内科
代謝・内分泌 10	糖尿病による発癌のリスクに関する日本人データのメタアナリシス	能登 洋 国立国際医療センター戸山病院 糖尿病代謝症候群診療部
腎臓 1	血液透析導入の時期判断に影響する血液パラメータの解析	富丘 聡 帝京大学医学部 内科
腎臓 2	慢性腎臓病に合併する高尿酸血症に対するベンズブロマロンの安全性と有効性について	山下 正弘 帝京大学医学部 内科
呼吸器	間質性肺炎病態にアポリポ蛋白Eが及ぼす役割	小島 康弘 帝京大学医学部 内科 呼吸器・アレルギー学
脳・神経	在宅神経疾患患者に対する3種類の栄養管理:経口摂取・在宅IVH・胃瘻PEGの比較検討	新谷 周三 総合病院 取手協同病院 神経内科

第 45 回日本成人病（生活習慣病）学会開催のご案内

会 長：名川弘一（東京大学腫瘍・血管外科学講座 教授）

会 期：平成 23 年 1 月 15 日（土）・16 日（日）

会 場：都市センターホテル（東京）

テーマ：『人』それぞれの健やかさを求めて（仮題）

連絡先：東京大学腫瘍血管外科教室

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL: 03-3815-5411 (内線 33246) FAX: 03-3811-6822

* 一般演題締切り予定：9 月末日

Key word

基質マッピング(Substrate Mapping)

東海大学医学部付属八王子病院 循環器内科 教授
小林 義典

Substrate mapping とは不整脈を発生させる基質を三次元画像化し、不整脈発生あるいは持続に関与する領域を同定する目的で行われる。

近年の医療工学の進歩により開発された CARTO システム（バイオセンス・ウェブスター社）、NAV_x システム（セント・ジェード・メディカル社）はカテーテル先端電極からの位置情報と、電位情報を同時に記録することが可能で、このデータを基に一つの心チャンバー、例えば右心房内膜側の解剖を三次元的に構築し、さらに不整脈発生時の心筋各所の興奮の様式（Activation mapping）をカラー表示することができる。さらに、ある一定時間内に興奮する心内膜領域を時系列で表示することにより、興奮伝播の過程を肉眼的に認識することができる（Propagation mapping）。これにより頻拍のメカニズムを診断することが容易となり、不整脈根治のためのカテーテル・アブレーションの標的部位あるいは領域をその場で同定することができる。ただし、頻拍中の正確な解剖電位マッピング（チャンバー全体）を作成するためには、少なくとも 100 点以上の情報を収集する必要がある。通常、この作業に 20-30 分以上の時間がかかるため、Activation mapping が作成できる条件として、頻拍自体が安定して持続していること、また頻拍中の心行動態が安定しており血圧の低下などを認めないことが挙げられる。

一般的に陳旧性心筋梗塞、拡張型心筋症に伴う心室頻拍は、①頻拍のメカニズムはリエントリーであるが、基礎心疾患の病態からリエントリー回路を複数持つものが多く、多数の単形性心室頻拍、すなわち心電図上異なる QRS 波形を持つ心室頻拍が出現する、②低心機能例が多く、頻拍が出現すると心行動態が破綻することが多い、③頻拍自体が安定して持続することは少なく、別の単形性頻拍や多形性心室頻拍、さらに心室細動に移行することが多い、などの特徴を持つ。従って、前述の Activation mapping を落ち着いて作成できる症例はむしろ少なく、この場合は Substrate mapping が重要な役割を果たすことになる。

Substrate mapping とは、簡単に言えば心内膜側あるいは心外膜側局所電位の電位波高（Amplitude）を三次元的に表示するものである。これにより、正常心筋、低電位領域、瘢痕部領域を識別することができる。通常は 2.5mV 以上を正常、0.1mV 未満を瘢痕部とし、その間を低電位領域としている。これにより、心チャンバー全体の中で障害心筋の部位と拡がりを明確に図示することができ、さらに孤立遅延電位（IDP）や Pace mapping などの手法を用いることにより、頻拍の責任部位を認識することが可能となる。最終的には頻拍を誘発することなく、アブレーションの戦略を組み立てることができる。

新理事挨拶

新理事に就任して

東京慈恵会医科大学 消化器肝臓内科教授
田尻 久雄

このたび、本学会の理事に選出していただき、誠に光栄に存じますとともに身の引き締まる思いです。微力ではありますが、本学会のさらなる発展に精一杯努力させていただきますのでよろしく願いいたします。

現在、わが国の医療を取り巻く環境は大きく変化しており、高齢化社会への対応、医療費適正化計画による医療費抑制、医療政策として機能分化の促進と効率性などが求められています。また消費者意識の変化、医療・福祉機関の競争激化、厳しい政府の社会保障政策など対応すべき課題は山積しています。政府が示す医療構造改革のなかの政策のひとつとして、生活習慣病の予防に力を入れており、40歳以上の者に対する健診を義務づけ、2015年度までに生活習慣病患者・予備群を25%減少させることを目標としています。私自身は、かつて癌研、国立がんセンターにおいて長い間、主に消化器がんの研究と診療に従事してまいりました。日本人の死亡原因の第1位が「がん」であり、

年間34万人以上の方々の命が奪われています。これからは健診の普及と高度化により、疾患の早期発見と早期治療、さらには個人の体質を考慮して疾病の予兆をとらえたいうえで超早期診断をしていくことが重要な課題です。

本学会では、生活習慣病対策を通して、国民の健康寿命を延ばし、ひいてはわが国全体の医療費軽減をもたらすために具体的な提言と実行をしていくことが必要だと思っています。これらの責務を果たすべく、本学会を通じて最大限貢献できるように尽力していく所存ですのでよろしくご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。



新理事に就任して

帝京大学 外科教授
渡邊 聡明



この度、成人病（生活習慣病）学会の理事に選出して頂き、心より感謝申し上げます。これまで、成人病（生活習慣病）学会には、幹事として学会活動に参加させて頂いて参りました。この間、様々な出来事がありましたが、特に印象的なのは、数年前から跡見理事長から、成人病（生活習慣病）学会のより

活性化のために、学会ホームページの改変や、資格制度の導入、さらには新たな学会主導の臨床試験の可能性など、様々な問題に関してご提案されたことです。その結果、現在では、熊谷委員長の認定管理資格制度委員会、北川委員長の企画委員会など新たな委員会が設置され、活動が開始されることになりました。認定管理資格制度委員会では、認定管理指導医制度の確立に向けて活動が開始されております。また、企画委員会では、運動

の生活習慣病に対する予防効果を明らかにする介入試験が検討されています。これは、「運動が“からだ”によいか？」という極めて基本的な問いに対して、科学的根拠を与えるための介入試験です。しかし、一見、当たり前のようなこの命題に対して臨床研究によりエビデンスをもって示すのは難しいのも事実です。さらに、運動療法と生活習慣病の関連を検討する際には、薬剤を使用しないため、製薬会社の資金的な援助が得にくいという問題点もあります。従って、このような介入試験は、まさに、本学会のような学会主導で推進して行かなくては、実現しない介入試験であり、本学会の主旨から考えて非常に重要な試みであると思います。このように、生活習慣病学会はこれから、新たな“動き”が始まる時期だと思っています。この様な重要な時期に理事として本学会に参画できる機会を頂いたことに対して、深く感謝申し上げます。微力ではありますが、本学会の今後の発展のために、少しでも貢献できるよう努力する所存です。今後とも、先生方のご指導とご鞭撻を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

主な関連学会のお知らせ(2010年5月~8月)

第79回日本消化器内視鏡学会：5月13日~15日
 学会長：田尻 久雄 (東京慈恵会医科大学)
 会場：グランドプリンスホテル新高輪 (東京都)
 連絡先：東京慈恵会医科大学内視鏡科 TEL:03-3433-1111

第20回国際心臓研究会 (ISHR)：5月13日~16日
 大会長：堀 正二 (大阪府立成人病センター)
 会場：京都国際会議場 (京都市)
 連絡先：大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学
 TEL:06-6875-5623

第46回日本肝臓学会：5月27日~28日
 大会長：河田 純男 (山形大学)
 会場：ホテルメトロポリタン山形 (山形市)
 連絡先：日本肝臓学会 TEL：03-3812-1567

第53回日本糖尿病学会学術集会：5月27日~30日
 大会長：加来 浩平 (川崎医科大学)
 会場：ホテルグランヴィア岡山 (岡山市)
 連絡先：川崎医科大学糖尿病内分泌内科 TEL:086-462-1111

第7回日本うつ病学会：6月11日~12日
 会長：長谷川雅美 (金沢大学)
 会場：石川県立音楽堂 (金沢市)
 連絡先：コンベンションリンケージ TEL:03-3263-8688

第90回日本消化器内視鏡学会関東支部：6月11日~12日
 会長：三浦総一郎 (防衛医科大学校)
 会場：シェンバツハ・サボー (東京都)
 連絡先：防衛医科大学校内科学光学医療診療部
 TEL:04-2995-1211

第216回日本循環器学会関東・甲信越地方会：6月12日
 地方会会長：青沼 和隆 (筑波大学大学院)
 会場：東京ステーションコンファレンス (東京都)
 連絡先：日本コンベンションサービス メディカルカンパニー
 TEL:03-3508-1237

第53回日本腎臓学会総会：6月16日~18日
 大会長：榎野 博史 (岡山大学大学院)
 会場：神戸国際会議場 (神戸市)
 連絡先：岡山大学彩学院医歯薬学総合研究科
 腎・免疫内分泌代謝内科学 TEL:046-220-1705

第18回日本乳癌学会学術総会：6月24日~25日
 会長：平田 公一 (札幌医科大学)
 会場：ロイトン札幌・さっぽろ芸術文化の館
 連絡先：日本コンベンションサービス TEL:011-738-3503

第52回日本老年医学会学術集会：6月24日~26日
 大会長：横野 浩一 (神戸大学大学院)
 会場：神戸国際会議場 (神戸市)
 連絡先：神戸大学大学院医学研究科内科学講座
 老年内科学 TEL:078-382-5111

第19回日本癌病態治療研究会：7月1日~2日
 当番世話人：日比 紀文 (慶應義塾大学)
 会場：東京ステーションコンファレンス (東京都)
 連絡先：慶應義塾大学医学部消化器内科 TEL:03-3353-1211

第73回大腸癌研究会：7月2日
 世話人：森 正樹 (大阪大学大学院)
 会場：奄美市文化センター (奄美市)
 連絡先：大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学講座
 TEL:06-6879-5111

第46回日本肝癌研究会：7月8日~9日
 会長：林 紀夫 (大阪大学大学院)
 会場：大阪国際会議場 (大阪市)
 連絡先：近畿大学消化器内科内日本肝癌研究会
 TEL:077-548-2217

第65回日本消化器外科学会：7月14日~16日
 大会長：岡 正朗 (山口大学大学院)
 会場：海峡メッセ下関 (下関市)
 連絡先：山口大学大学院医学研究科消化器・腫瘍外科学
 TEL:0836-22-2264

第40回胃癌研究科：7月18日
 会長：内藤 誠二 (九州大学大学院)
 会場：椿山荘 (東京都)
 連絡先：シータイム TEL:03-5159-0252

第290回日本内科学会九州地方会：8月28日
 大会長：野出 孝一 (佐賀大学)
 会場：佐賀大学医学部キャンパス (佐賀市)
 連絡先：佐賀大学医学部循環器・腎臓内科 TEL:0952-34-2364

日本成人病（生活習慣病）学会教育集会開催のご案内

今日、成人病・生活習慣病の重要性が改めて認識されております。本学会も学会活動の一環として成人病学・生活習慣病学の教育、啓発活動を行ってまいりましたが、今般、教育、啓発活動をより具体化するため学会認定管理指導医制度を設け、成人病・生活習慣病に高い関心を示す医師を教育、認定し生活習慣病関連の医療の向上を図ることを企画いたしました。

学会認定管理指導医制度の発足にあたり、本学会学術集会とは別に学会主催の教育集会を本年度より開催することとなりました。教育集会受講は学会認定管理指導医取得の申請要件ともなりますのでぜひご参加くださるようお願い申し上げます。

なお、学会認定管理指導医の申請は次年度（平成23年度）からとなる予定です。第1回教育集会開催は本年度9月を予定しておりますので、詳細は学会 Home Page をご参照ください。

記

第1回日本成人病（生活習慣病）学会 教育集会

日 時：平成22年9月4日（土） 15:00-19:00

会 場：サピアタワー東京ステーションコンファレンス

教育集会のプログラム、参加申し込みに関しては5月中旬頃に学会 Home Page でご案内申し上げます。

学会認定管理指導医申請は次年度からを予定しています。以下に学会認定管理指導医制度規約（案）を転記いたしました。

日本成人病（生活習慣病）学会認定管理指導医制度規定（案）

第1章 総則

- 第1条 この制度は成人病学・生活習慣病学の進歩に即して、疾病の予防および診療に必要な総合的な知識と技量を有する優れた医師を育成し、生活習慣病関連の医療の向上を図り、もって成人病学・生活習慣病学の進歩と国民の健康の向上に寄与することを目的とする。
- 第2条 日本成人病（生活習慣病）学会（以下本学会）は、前条の目的を達成するため本学会認定管理指導医制度を設ける。
- 第3条 本制度の運営のため認定管理指導医資格制度委員会を設け、認定管理指導医資格に関する審議ならびに認定を行う。
- 第4条 (管理医像)本学会認定管理指導医は、生活習慣病の病態を幅広く理解し、その診療において適正な医療を実践できると共に、患者の病態に合わせた適切な生活指導ができる能力を備える医師であることを要する。

第2章 認定管理指導医の資格

第5条 本学会認定管理指導医の資格

1. 日本国の医師免許証を有すること。
2. 申請時において継続5年以上本学会の会員であること。
3. 会員として本学会が主催する学術集会あるいは教育集会に2回以上の出席があること。
4. 別に定める細則による資格を満たすこと。

第3章 認定管理指導医資格制度委員会

- 第6条 第1条の目的を達成するため認定管理指導医資格制度委員会をおく。
- 第7条 本学会理事会が認定管理指導医資格制度委員若干名を選任する。
- 第8条 認定管理指導医資格制度委員は資格制度委員会を組織し、本学会認定管理指導医の資格認定に関する業務を行う。

第4章 認定管理指導医の申請

- 第9条 認定管理指導医の認定を希望するものは、つぎの各項に定める書類を本学会認定管理指導医資格制度委員会に提出する。
1. 認定管理指導医資格認定申請書
 2. 履歴書
 3. 医師免許証（写し）
 4. 本学会学術集会参加証（写し）
 5. 本学会教育集会受講証（写し）
 6. 業績目録（過去5年間における本学会の講演、座長の学会抄録の写し。
生活習慣病に関する論文、他学会における講演などの記録の写し。）
 7. 本学会評議員もしくは本学会認定管理指導医資格をもつ医師の推薦書。
- 第10条 資格制度委員会は、毎年1回（10月）申請書類によって認定資格について審査を行い、理事会に報告する。
- 第11条 資格制度委員会の審査結果は理事会の議を経て総会で決定する。
- 第12条 本学会理事長は審査の要件を満たしたものに対して資格認定証を交付する。
- 第13条 認定審査の期日および必要な事項は毎年学会ホームページに公示し、学会 News letter に案内を提示する。

第5章 認定管理指導医資格の更新

第14条 認定は5年毎に更新する。更新を希望するものは次の各項に定める書類を本学会認定管理指導医資格制度審査委員会に提出する。

1. 認定管理指導医資格認定申請書
2. 過去5年間の本学会学術集会参加証の写し
3. 過去5年間の本学会教育集会受講証の写し
4. 過去5年間の業績目録など（施行細則参照）

第6章 認定管理指導医の資格の喪失

第15条 認定管理指導医は以下の理由により資格を喪失する。

1. 認定管理指導医本人が辞退したとき。
2. 認定管理指導医の更新を受けないとき。
3. 会員としての資格を喪失したとき。
4. 申請書類に虚偽が認められたとき。
5. 認定管理指導医として不適当と理事会が判断したとき。

第7章 補 則

第16条 本規則は平成22年7月1日から施行する。

第17条 本規則施行についての細則は別に定める。

第18条 暫定処置 平成23年度（平成23年1月—24年12月）までは以下の暫定処置を行う。

1. 現評議員は申請の要件を満たさなくても認定管理指導医を得ることができる。
- 2.

認定管理指導医認定および更新に関する施行細則（案）

第1章 審査と認定

第1条 認定管理指導医の認定ならびに更新に関する審査は提出された書類によって行う。

第2条 認定管理指導医資格制度委員会は、申請書類の正本を本学会事務局に受理した日から5年間保管する。

第3条 理事長は、認定されなかった申請者に対し、その理由書を発行する。

第2章 認定管理指導医の申請・更新

第4条 認定管理指導医の認定を申請および更新を希望する者は、審査を受ける年の9月1日までに必ず到着するように、認定管理指導医申請書類を学会認定管理指導医資格制度委員会まで提出しなければならない。

第5条 認定管理指導医の認定を申請する者は認定手数料として審査料1万円、認定料2万円を納付しなければならない。

2. 認定管理指導医の更新を申請する者は審査料として1万円を納付しなければならない。
3. 既納の審査料はいかなる理由があっても返却しない。

第6条 認定管理指導医を申請・更新する者は以下に定めた業績の5点以上を有していなければならない。ただし、本学術集会あるいは教育集会に2回以上の出席を要する。

1. 本学術集会出席（2点）：参加証の写し
2. 本学会発表（筆頭演者1点 共同演者0.5点）：学会抄録号の写し
3. 本学会の座長（1点）：抄録号の写し
4. 本学会教育集会出席（2点）：教育集会受講証の写し
5. 生活習慣病に関する論文発表（筆頭著者1点 共同著者0.5点）：表紙の写し
6. 他学会、研究会の成人病・生活習慣病に関する発表（0.5点）：抄録号の写し

理事会・評議員会・総会報告

理事会（平成22年1月8日）・評議員会（平成22年1月9日）・総会（平成22年1月10日）が開催された。

◎平成21年度学会運営状況・活動について、幹事より報告がなされた。

◎平成21年度会計報告が幹事よりなされ、監事より監査が適正であるとの報告がなされた。

◎平成22年度予算案の説明が幹事よりなされた。

◎再任理事・再任評議員の再任が理事会・評議員会・総会にて承認された。

◎新理事選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆新理事

田尻 久雄：東京慈恵会医科大学 消化器肝臓内科 教授

渡邊 聡明：帝京大学医学部 外科 教授

◎新評議員選出にあたり 13名の候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆新評議員

和泉 匡洋：大阪府立成人病センター循環器内科 部長

馬原 孝彦：東京医科大学病院老年病学教室 講師

小林 義典：東海大学医学部付属八王子病院
循環器内科 教授

佐倉 宏：東京女子医科大学糖尿病センター 准教授

高橋 英孝：東海大学医学部基盤診療学系健康管理学 教授

土岐祐一郎：大阪大学大学院医学系研究科

外科学教室消化器外科 教授

供田 文宏：富山大学医学部第二内科 講師

富沢 巧治：(財)茨城県総合健診協会診療所 副所長

濱田千江子：順天堂大学医学部腎臓内科 准教授

能澤 孝：富山大学医学部第二内科 准教授

堀越 哲：順天堂大学医学部腎臓内科 主任准教授

森 俊幸：杏林大学医学部外科 教授

森 秀明：杏林大学医学部第三内科 准教授

(あいうえお順)

◎次期会長・副会長選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 第45回日本成人病（生活習慣病）学会会長
名川 弘一：東京大学腫瘍外科 教授

◆ 同 副会長
北川 泰久：東海大学医学部付属八王子病院 院長

◎委員会報告

◆企画委員会：

企画案の提案がなされた。

研究テーマを「生活習慣病患者における運動療法の有用性」とし、運動の生活習慣病に対する予防効果を明らかにする介入試験を学会主導で実施するための案が提示された。

◆資格制度委員会：

認定管理指導医制度規約の素案を作成した。

学会の活性化と現場で患者に指導・説明できる医師を作ることを目的とする。

◎第44回学術集会開催内容の報告と挨拶がなされた。

◆テーマ「生活習慣から高齢者社会を展望する」

◆市民公開講座テーマ

「まもろう 大切な心臓と脳—すこやかな明日のために—」

「会員の声」投稿募集

**学会へのご意見・ご要望・情報交換の場として
「会員の声」のコーナーに投稿をお寄せください。**

氏名・所属を明記の上、200字以内でご投稿下さい。
下記アドレスにお送りいただくか、プリントアウトしたものを学会事務局ニュースレター編集部へご郵送下さい。

E-mail : jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp

再任役員・評議員名簿

◆再任理事

跡見 裕 淡田 修久 岩本 安彦 小俣 政男 北川 泰久 杉原 健一 堀 正二 三浦総一郎

(あいうえお順)

◆再任評議員

明石 隆吉	跡見 裕	淡田 修久	飯田 啓治	石原扶美武	和泉 徹	岩淵 省吾	岩本 安彦
大井 一輝	岡野 健一	鬼倉俊一郎	小俣 政男	笠貫 宏	片本 哲郎	川邊 隆夫	北山 丈二
久代登志男	葛谷 信明	熊谷 一秀	熊田 博光	小澤 邦寿	小西 文雄	駒田 敏之	竿代 丈夫
佐藤 麻子	重本 六男	杉原 健一	杉山幸比古	炭山 嘉伸	高山 忠利	田上 幹樹	田妻 進
東丸 貴信	富野康日己	中原 一彦	永井 良三	長尾 建	野出 孝一	橋本 尚武	日比 紀文
古河 洋	堀 正二	前田 淳	三浦総一郎	三川 武彦	三宅 良彦	森本紳一郎	森本 晋
矢永 勝彦	山田 尚	横井 幸男	米井 泰治	与芝 真彰	吉山 直樹	渡辺 重行	渡辺 純夫
渡部 幸夫							

(あいうえお順)

平成 21 年度新入会員

阿部 真也	井垣 貴子	石川 祐史	井上 博	上田 浩	漆崎 育子	江藤 一弘	大賀 拓史
大澤 勲	大塚 昌樹	奥田 真理	奥原 康英	梶山 祐介	蔵野 誠	小浜 勝之	小武家と博
近藤 春美	齋藤 あき	酒井久美子	重松 邦広	重安 邦俊	篠田 幸作	柴崎 孝二	島 秀行
島尻 佳典	島田 千秋	末次 正治	高井 敦子	高村 晴美	武岡 陽子	谷口絵理香	谷本 光生
谷本 光生	田村 行識	土屋 孝範	出口 雄三	東郷 眞子	徳岡健太郎	土手友太郎	中川 義嗣
仲下祐美子	中山 紳	西垣結佳子	西谷 寛仁	野本 良一	野呂 忠孝	萩原 晋二	服部 幹子
林 洋	原 眞純	疋田 茂樹	福井 幸夫	伏谷 靖	文沢 靖	平安座依子	堀川 千嘉
三橋 敏武	宮崎 幸	宮永美佐子	本館 教子	安田大二郎	山川 正	山田 敬子	山鳥 江美
山本 典代	和田 尚子	渡邊健太郎					

(あいうえお順)

広報委員会報告

◎ 2010年の第1回同委員会が1月9日行われた。4月発行予定のニュースレターVol.9(1)の編集会議が中心であった。

◎ 次回より徳岡健太郎先生（東海大神経内科講師、八王子病院神経内科医長）が広報委員会に加わる事になった。



事務局からのお願い

4月は移動や引越し等が多くなる季節です。
勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、
必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。
(電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意下さい。)

入会のお勧め

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約1,200名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が数多く参加し、それぞれの場で活躍しています。新たに認定管理指導医資格制度や企画委員会による介入試験などの活動が開始されますので、本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。

また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

※ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金を確認出来た時点で入会となります。(会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。)

ご入金の確認が出来ない場合は正式入会にはなりませんので、ご注意下さい。

一般会員年会費：3,000円／評議員年会費：6,000円

入会金：なし

本年は春先の気候異変があり、3月中旬に温かさを超えて暑い日々が続いた後、急に真冬に戻ったような寒い日々が続いている。そのせいで、今年の春から夏にかけての農作物の出来にもかなり影響が出る様であるし、先日の南米地震後の津波による三陸沖の養殖筏の被害も甚大であるとのことである。このような事が続くことで、まるで地球の変化が顕著になり、地球自身が人類の希望通りの道を歩むのをやめてしまったかのような不気味さを実感するのは、私一人だけではないであろう。

どれだけ文明が進み人類が我が世を謳歌しても、このような天変地異に遭遇すると天災というものは人智の及ばぬことであるのを実感し、人類の無力さをかみしめることになる。

更には本マグロの捕獲取引規制の是非が声高に取り上げられている現実直面し、かつて必要とするだけの量を捕獲し、決して取り過ぎず、“mottainai 精神”で骨まで残さず消費していた日本人の美德を考えると、大量捕獲大量消費に対して自主規制を敷くべきである事は国際社会から指摘されるまでもないのである。

21世紀に入って我々人類も産業革命以来持ち続けた驕りを捨て、大量生産・大量消費の悪習慣を捨てて、地球から急に絶縁状が届けられる事のない様にすべての生物を愛おしむ様な生活に戻る必要があるのではないかとも思われる。

その事が今後達成出来れば、成人病（生活習慣病）も激減しかつ健康な老後を迎えられるのではないかと考えるこの頃である。

(青沼 和隆)

成人病（生活習慣病）ニュースレター
Vol.9-No.1 2010年4月1日発行

発行人：跡見 裕

委員会顧問：増田善昭・山口 巖

責任編集委員：青沼和隆（筑波大学）

編集委員：馬原孝彦（東京医科大学）

河野 了（筑波大学）

木下 誠（帝京大学）

北川泰久（東海大学八王子病院）

北山丈二（東京大学）

佐藤麻子（東京女子医科大学）

中川敬一（東京シーサイドクリニック）

横山 登（昭和大学豊洲病院）

吉田晴彦（東京大学）

印刷所：株式会社 文 栄 社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局
(株) 文栄社 までお問合せください。

お問い合わせ・資料のご請求

日本成人病（生活習慣病）学会

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-3

(編集部) 株式会社 文栄社 内

TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415

E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp

URL：http://www.j-seijinbyou.gr.jp